

平成29年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 並 少 並 並 やや多 少	やや少 並 少 並 並 やや多 やや少
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類 (防除情報第17号)	並 並 やや多	並 並 多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 (注意報第10号継続)	並 並 やや多 多	並 並 やや多 多
たまねぎ	白色疫病 べと病 (防除情報第18号) ネギアザミウマ	やや少 並 少	やや少 やや多 やや少
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 (越冬病斑) 並 (越冬病斑) 少	並 並 やや少
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	やや少	やや少
茶	カンザワハダニ	やや少	並

【発生予報】 本文の () 内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、大麦・小麦のいずれも発生を認めなかった(大麦:発生を認めない、小麦:発病茎率0.0%、発生圃場率0.7%)。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（11筆）の結果、発病葉率は0.7%（4.7%）、発生圃場率は27.3%（34.4%）であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（11筆）の結果、発病葉率は9.7%（7.8%）、発生圃場率は81.8%（65.3%）であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（11筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率2.4%、発生圃場率21.9%）。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（11筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率2.1%）。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（11筆）の結果、発病果率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は9.1%（5.3%）であった。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査（11筆）の結果、寄生葉率は6.1%（1.8%）、発生圃場率は45.5%（28.4%）で、一部多発圃場が認められた。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

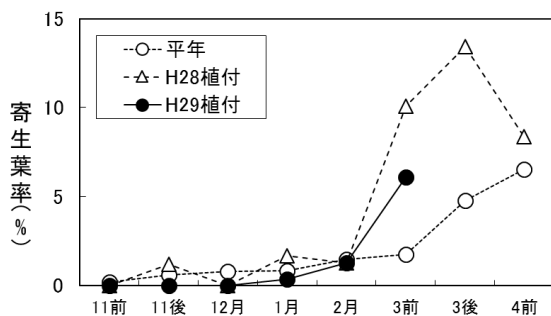


図 きゅうりのアザミウマ類 寄生葉率の推移

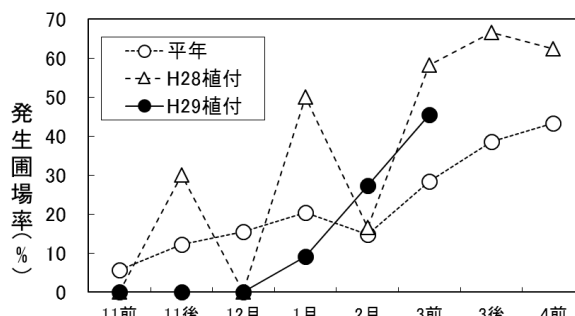


図 きゅうりのアザミウマ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ウ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 3月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.2% (1.9%)、発生圃場率は9.1% (30.3%)であった。
- イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.4% (0.4%)、発生圃場率は25.0% (19.8%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病果率0.01% (0.2%)、発病葉率は0.7% (過去5ヵ年平均1.2%)、発生圃場率は25.0% (同 30.0%)であった。

3. コナジラミ類

平成30年3月15日付け病害虫発生予察防除情報第17号による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(27筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率2.3%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.2%(0.2%)、発生圃場率は18.5%(19.9%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.2%(0.3%)、発生圃場率は11.1%(6.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

平成30年2月5日付け**病害虫発生予察注意報第10号**を継続。

なお、その後の発生状況等については、以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は25.6%(6.1%)、発生圃場率は74.1%(39.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

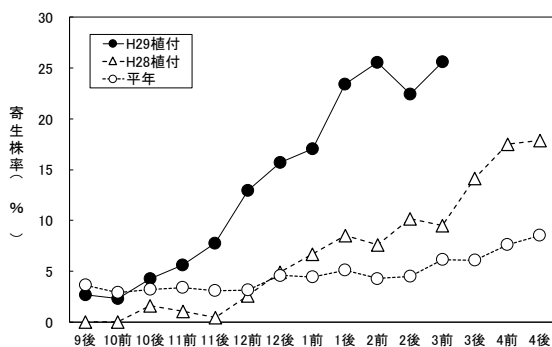


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年:H19~H28の平均値(最大・小値除く)

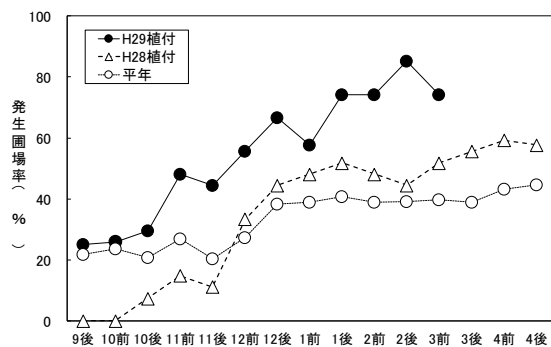


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年:H19~H28の平均値(最大・小値除く)

(2) 防除上注意すべき事項

ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬剤散布は薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に行う。なお、茎葉が繁茂し、葉裏や株内部への薬剤の付着が不十分で、十分な防除効果が得られていない圃場も見受けられるため、古葉を摘葉して防除を行う。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすいため、薬液が葉裏まで十分かかるように留意する。

- イ 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤は、卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。
- エ 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。
- オ 薬剤散布の際は、ハウスのみつばち用出入口を防ぎ、薬剤が巣箱にかからないように注意することや、散布後はハウス内の換気を十分行うなど、みつばちに影響の無いよう適正に管理する。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.1%、発生圃場率8.3%）。

2. ベと病

平成30年3月15日付け**病害虫発生予察防除情報第18号**による。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は1.6%（19.6%）、発生圃場率は33.3%（65.0%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、旧葉での発生を認めなかった（発病葉率0.0%、発生圃場率2.4%）。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.1%（0.2%）、発生圃場率は8.3%（9.9%）であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は0.2%(2.3%)、発生圃場率は5.6%(29.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

果樹共通

1. クワゴマダラヒトリ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

平成29年9月および10月に実施した産卵樹上(アカメガシワ、カラスザンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内12地区で発生を認めなかった(平成19~28年の発生程度の平均値:0.3)。

※以下の基準により発生程度を達観で調査した。

調査基準:極多(5)、多(4)、中(3)、少(2)、極少(1)、無(0)

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.8%)、発生圃場率は6.3%(31.4%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

【参考】

気象

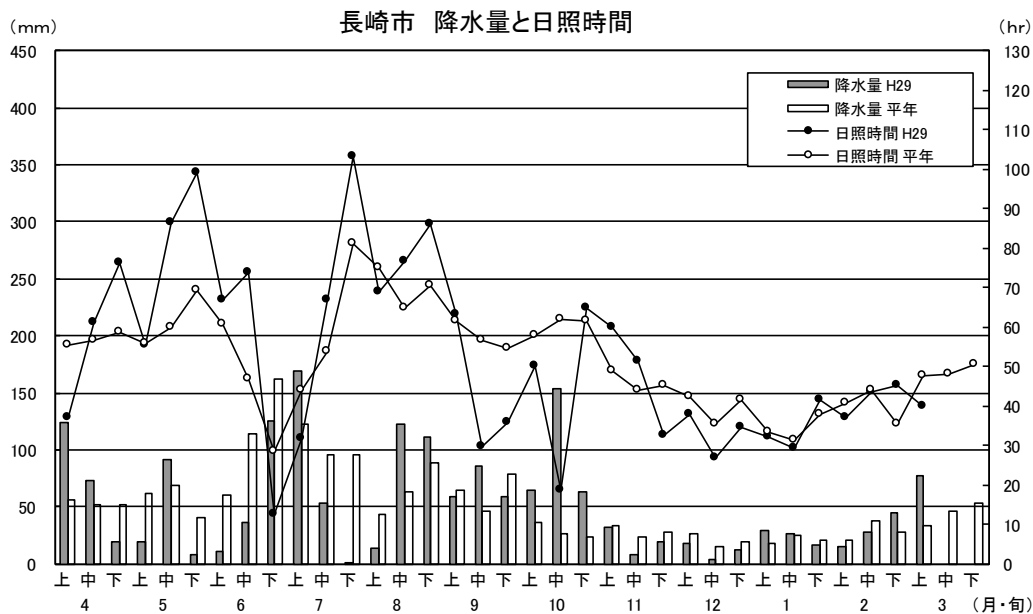
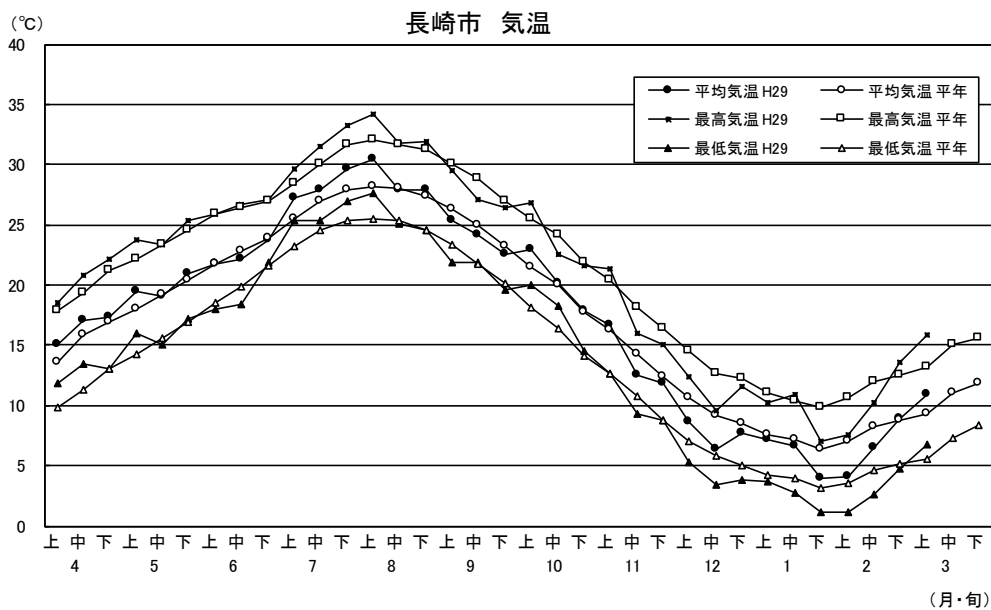
(平成30年3月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

平成29年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.ippn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

